

図画工作科 公開授業・授業研究会

授業者 藤岡市立鬼石小学校 町田 和弘 教諭
平成26年11月12日(水) 第6学年



伊藤若冲作「百犬図」を鑑賞対象として、絵に表されている場面の状況を想像する鑑賞の授業を公開しました。



→ はばたく群馬の指導プラン
～実践の手引き～ P90～92

日頃、鑑賞の指導に苦手意識を抱いている先生方に「鑑賞の授業は面白い!」ということを知ってもらうために、登場してくるもののせりふを考えながら、児童が積極的に対象に働きかける鑑賞活動を提案しました。

【題材名】 6年 『なんだ?ワンだ!』 (鑑賞)

【本時のねらい】

絵に描かれている犬の立場になってせりふを考える活動を通して、注目した部分とその周辺に表されているものの関係を踏まえて、絵に表されている場面の状況を想像し、「百犬図」のよさや美しさを感じ取る。

【伸ばしたい資質・能力】

- ・美術作品を自分らしい見方や感じ方で味わう態度
- ・絵に表されている場面の状況を想像しながら、よさや美しさなどを感じ取る力



【提案する手だて】

手だて1 絵の登場人物に同化しながら作品世界を味わう活動を設定する

手だて2 作品のどのような特徴からせりふを想像したのかを「鑑賞のポイント」として確認する

授業の様子 ①

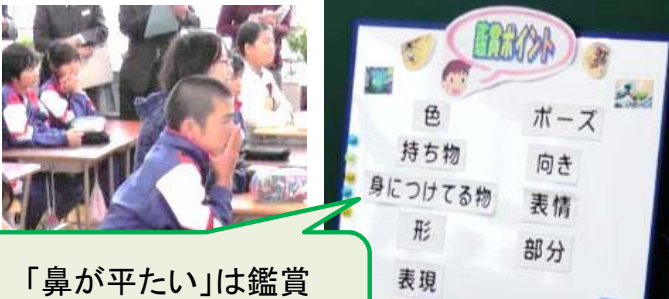
1. 本時の課題を把握する



本当に犬は百匹いるのかな。

作品との出会いでは、児童の「？」を引き出す発問を行い、対象との距離感を縮め、活動への関心・意欲を高めるとともに、基本的な情報を示しました。

→ 実践の手引き P92



「鼻が平たい」は鑑賞のポイントのどれかな。

手だて 2

前回までの鑑賞活動で、児童とともに見いだした「鑑賞のポイント」を振り返り、共通の視点をもって課題に取り組むことをつかみました。

【本時の課題】「百犬図」で気になる犬を見つけ、どんなことがおきているかを想像しよう。

2. 描かれている犬に同化しながら作品の世界を味わう



気になる犬を見つけてみよう。見付いたら、その犬になったつもりで、せりふを考えて付箋紙に書いてみよう。

自然と話合いが生まれるように、始めは、2人に1枚、百犬図の図版を配布して対象から想像を広げました。

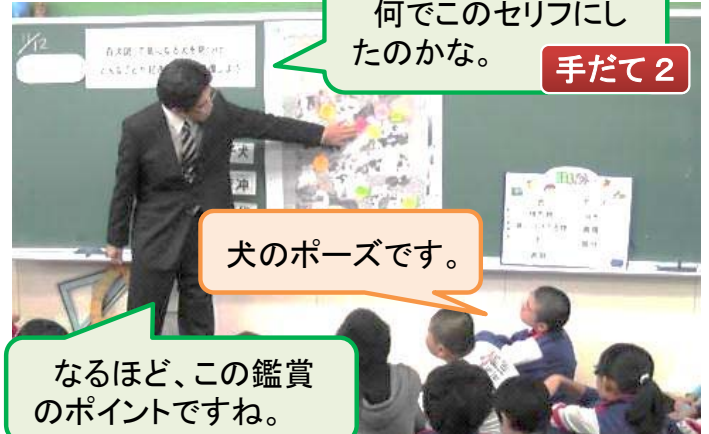
→ 実践の手引き P92



想像した犬のせりふを書き込む付箋紙は、書き込みやすいよう「吹き出し」の形を使用しました。

何でこのセリフにしたのかな。

手だて 2



犬のポーズです。

なるほど、この鑑賞のポイントですね。

黒板の図版に全員の付箋を貼り、そのせりふにした理由を交流しました。

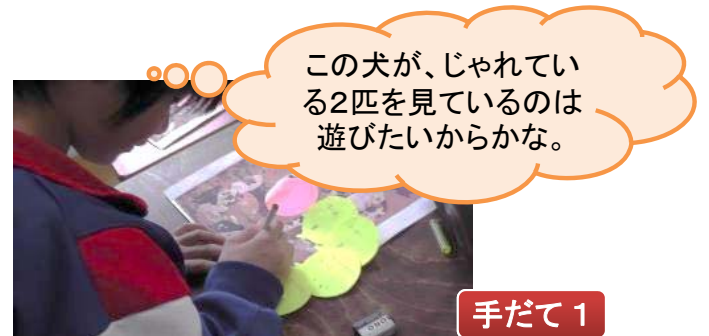
皆さんが新たに発見した鑑賞のポイントを加えてさらに見ていきましょう。

手だて 2

周辺の状態を想像できるように、「周りとの関係」という新たな鑑賞のポイントを加えました。

→ 実践の手引き P92

3. 気になる犬と周りとの関係性を意識して、視野を広げながら、作品の世界を味わう



この犬が、じゃれている2匹を見ているのは遊ばたいからかな。

今度は、じっくりと作品を見て考えることができるよう、1人に1枚の図版を配布して、付箋を貼り付けられるようにしました。

授業の様子 ②

4. 書いたせりふを説明し合う

隣同士、自分が書いたせりふについて、そう考えた理由も一緒に説明し合いました。

手だて 2



この犬の目線がこっちを見ているので…。

2匹のケンカを止めようとしていて…。

聞く側には、自分が絵の中に入り込み、犬になりきってせりふを付け足すよう投げかけました。

手だて 1

友達の説明を聞いて考えたことを、犬の図柄の付箋紙に書き、相手の図版に貼り付けました。



→ 実践の手引き P92



そういうふうに想像したのか。なるほど、そういうせりふも面白いね。

5. 友達の書いたせりふを聞いて、本時の学習を振り返る

僕も仲間に入れてと言っています。



周りの犬と2匹の関わりをよく想像できたね。

全員で、鑑賞のポイントを確認しながら、友達の発表を聞き、自分では想像しなかった周りとの関係性などについて、気付くことができました。

【授業研究会での意見】

<よかった点>

- ・犬のせりふを考えさせることにより、主体的な鑑賞をさせることができていた。
- ・鑑賞のポイントが定着していて、付箋紙に書き込む際に活かされていた。
- ・交流活動が自然に行われる手だてや場の設定がなされていて、周りとの関係を意識した鑑賞ができていた。

<改善点>

- ・ICT機器を有効に活用し、意見を交流する活動の時間を充実させられるとよい。
- ・作品のよさや美しさをしっかりと共有する場面を設け、ねらいに対応した振り返りを充実させるとよい。



【参加者の声】

- ・せりふを書くという活動は、主体的な鑑賞活動に有効であると感じました。
- ・評価と指導を一体化させる意味でも、付箋紙による可視化は効果的だったと思いました。
- ・鑑賞のポイントを積み重ねていくこと、常に掲示して意識させることは、鑑賞を深める上で重要であると認識しました。
- ・鑑賞の授業は苦手意識をもっていました。1時間の授業展開を見て、自分でも行ってみたいという意欲をもちました。

【授業者の感想】

- ・鑑賞の醍醐味は対象選定にあると考える。百犬図は6年生が意欲的に鑑賞できるものであったと実感した。また、鑑賞のポイントについては、日常的に目にすることで、授業中も一人一人が意識して取り組むことができていたと思う。

今後も、子どもたちが鑑賞のポイントを様々な活動で積極的に活用できるよう指導していきたい。

